

# 第15回

秋季特別企画展のここに注目！

②

～**扁額**(へんがく)の作品～

2021年10月5日(火) 9時30分～

講師；寺前公基(観峰館学芸員)

## ◇講座の目的◇

- ・ 秋季特別企画展について（内容の説明）
- ・ 扁額の作品について、その魅力など
- ・ 選ばれる言葉

為書  
(「平木兄雅属」)

## ◇標準的な扁額◇

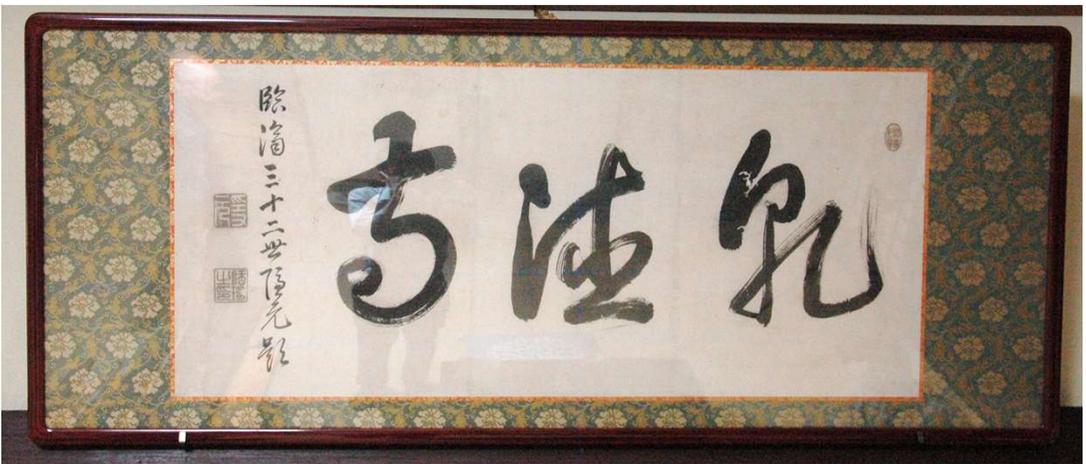


- ・ 文字数は1文字から10文字程度までさまざま
  - ・ 本紙の素材は、掛軸と同じく、紙もしくは絹
  - ・ 落款の前に「**為書** (ためがき)」を書くことが多い
- 特定の人物に送られたものが多い。
- よって、優れた作品が多い。

## ◇標準的な扁額◇



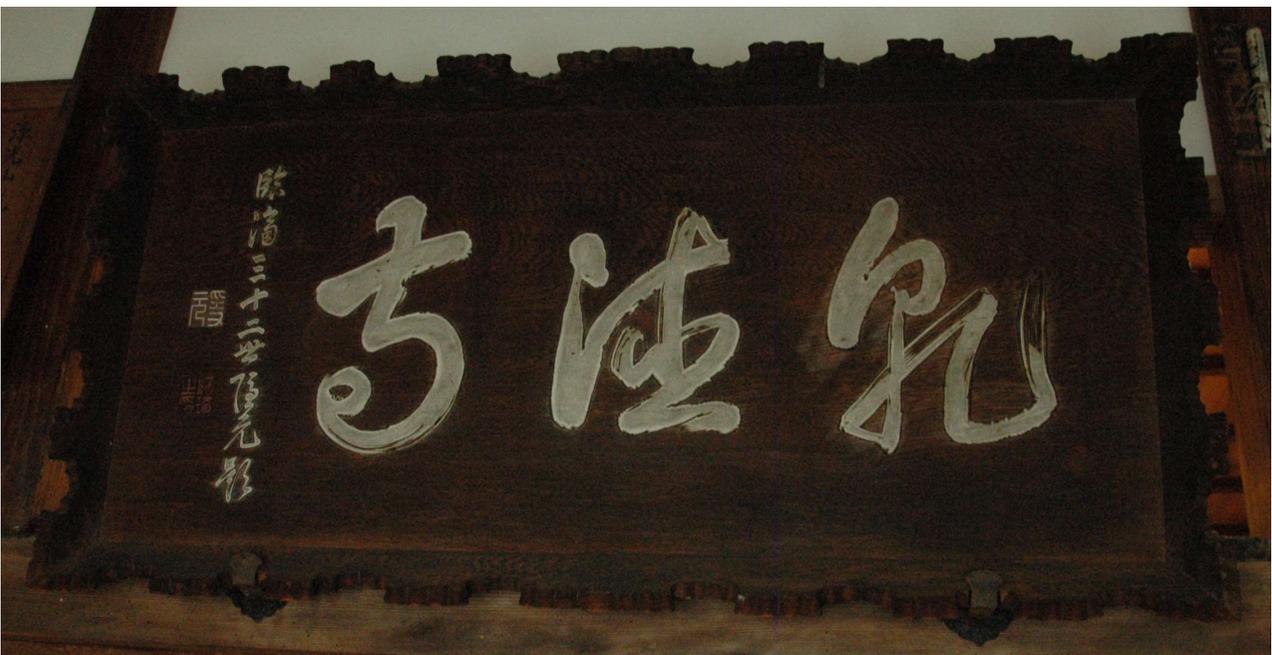
- ・文字は本紙の幅を考慮して、縦長になる傾向がある。
  - ・寺院などには、門扉などに掲げる木製の額を作成するための下書きが、扁額として残されている場合がある。
- 次のページ参照。



(上) 扁額 (肉筆)

(下) 木額

隱元隆琦「乾德寺」  
(乾德寺所藏)



## ◇為書の基本的なもの◆

- ・ ○○（雅）属 ○○（雅）嘱  
→ 「雅」は送る相手への敬意を示す
- ・ ○○（雅）正 ○○（指）正  
→ 「正」とは間違いがないか正してほしいという意味。
- ・ 為○○属or正  
→ 「為」とは「○○の為に」という意味。

では、この展覧会に  
出品している作品を  
見てみましょう！



貫名菘翁 「鶴春秋」 江戸末期作（江頭町自治会所蔵）



鶴というおめでたい鳥と、春秋という「長く続く」という言葉を組み合わせ、幸せが長く続くように、との願いが込められている。

貫名菘翁 「皆春」 江戸末期作（個人蔵）

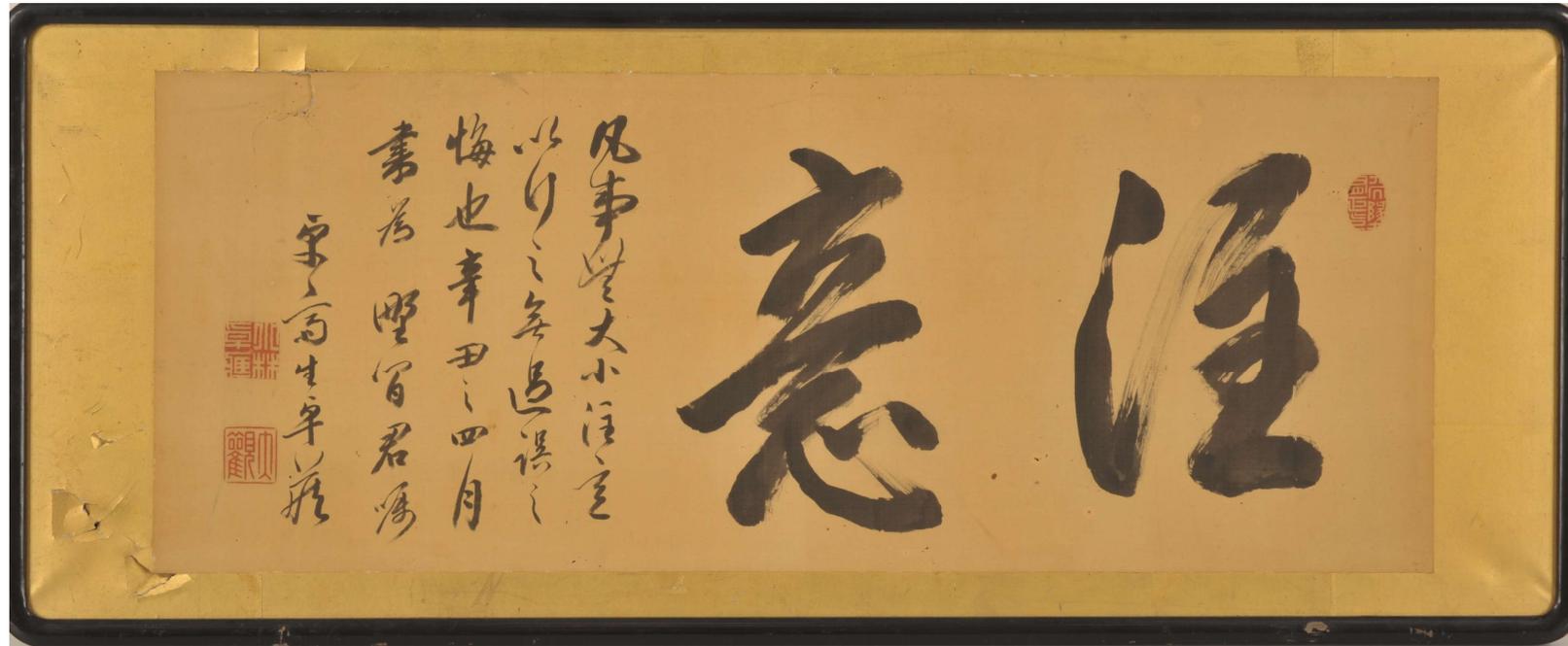


この作品は、所蔵者の道具帳によると、八幡で開業する医師のために、貫名菘翁が書いたものです。

この額を送った時に、感激のあまり、その医者は、自分の名前を「皆春」と改めました。

# 小林卓斎 「注意」

明治34年（1901）作（個人蔵）



（釈文）

注意

凡そ大小なく注意して行えば、過誤の悔い無きなり。

（物事の大きい小さいに関係なく、注意して対応すれば、不注意による失敗という後悔はしなくてすむ。）

小林卓斎 「注意」 明治34年（1901）作（個人蔵）

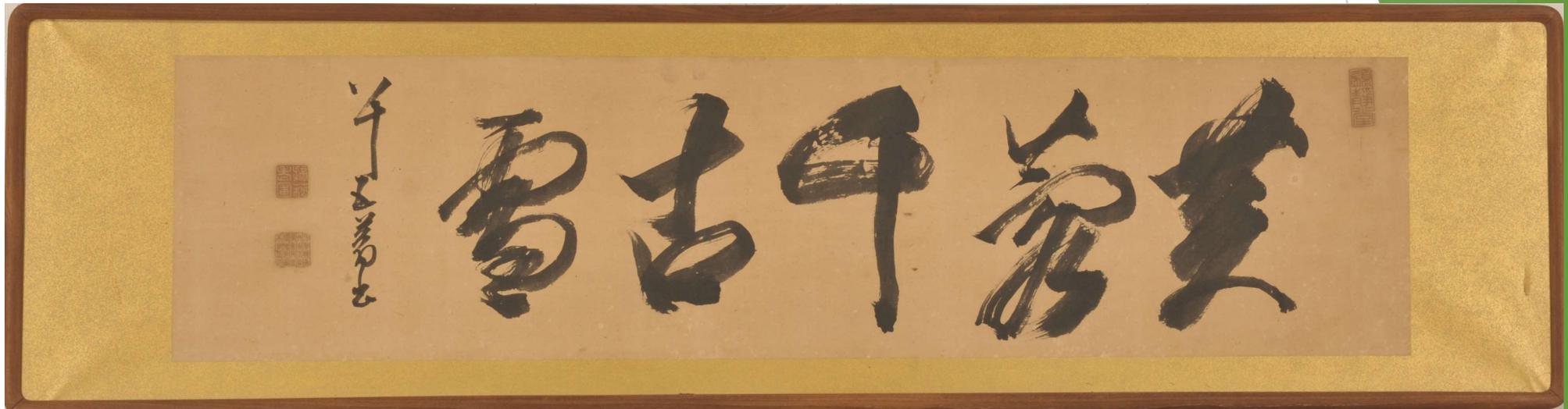


（為書）

野間君嘱

（野間とは、八幡の商人である野間家のこと。野間家に対して、小林卓斎が送ったもの。※嘱とは、ゆだねること。例）「委嘱」）

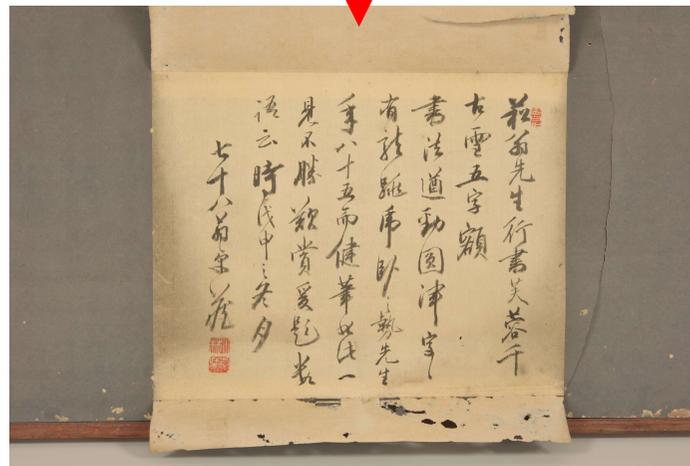
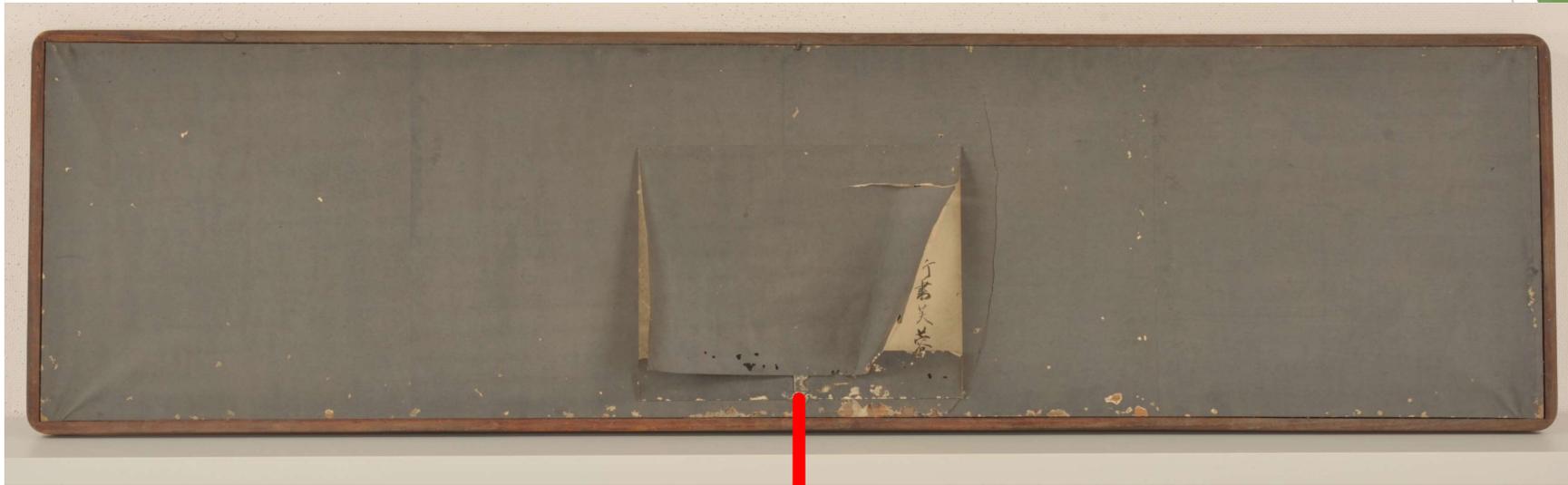
貫名菘翁 「芙蓉千古雪」 文久2年（1862）（個人蔵）



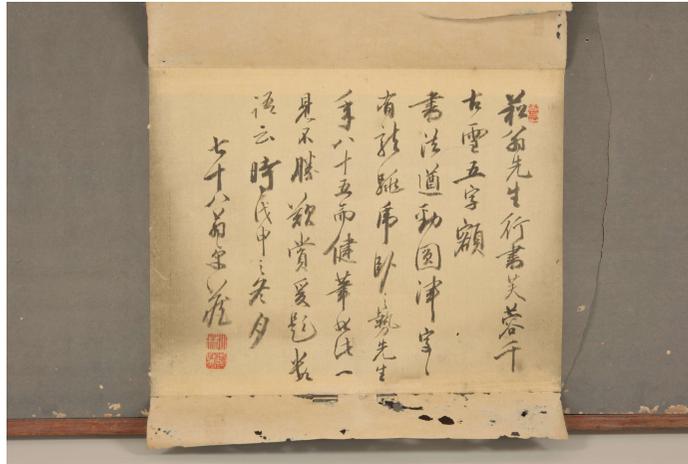
芙蓉峰（ふようほう）とは富士山のこと。しかしここでは、個人宅近くから見える山（伊吹山か）のことを指している。千古雪とは、永遠の雪という意味。

→ この作品には、裏面に仕掛けがある。

貫名菘翁「芙蓉千古雪」 文久2年（1862）（個人蔵）



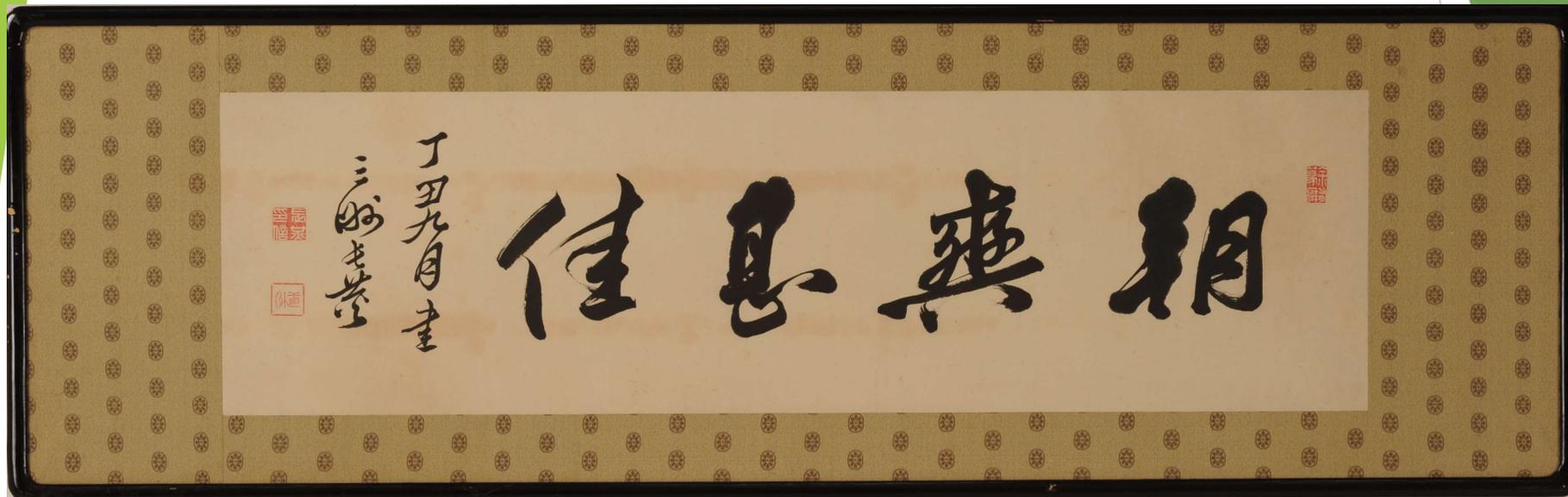
貫名菘翁 「芙蓉千古雪」 文久2年（1862）（個人蔵）



菘翁先生行書芙蓉千古雪五字額  
書法遒勁円滑字之  
有龍跳虎臥之勢先生  
筆八十五而健筆如此一  
見不勝歎賞爰題數  
語云 時戊申之冬月  
七十八翁卓蔵

（これは菘翁先生の、その書法は、筆の勢いが強く滑らかで、その字は龍が飛び跳ね虎が地に臥せるように自由でのびのびとしたものである。先生は85歳にしてお元気でその書は一目見て、感動を覚えるものである。）

長三洲「朝爽甚佳」 明治10年（1877）作（個人蔵）

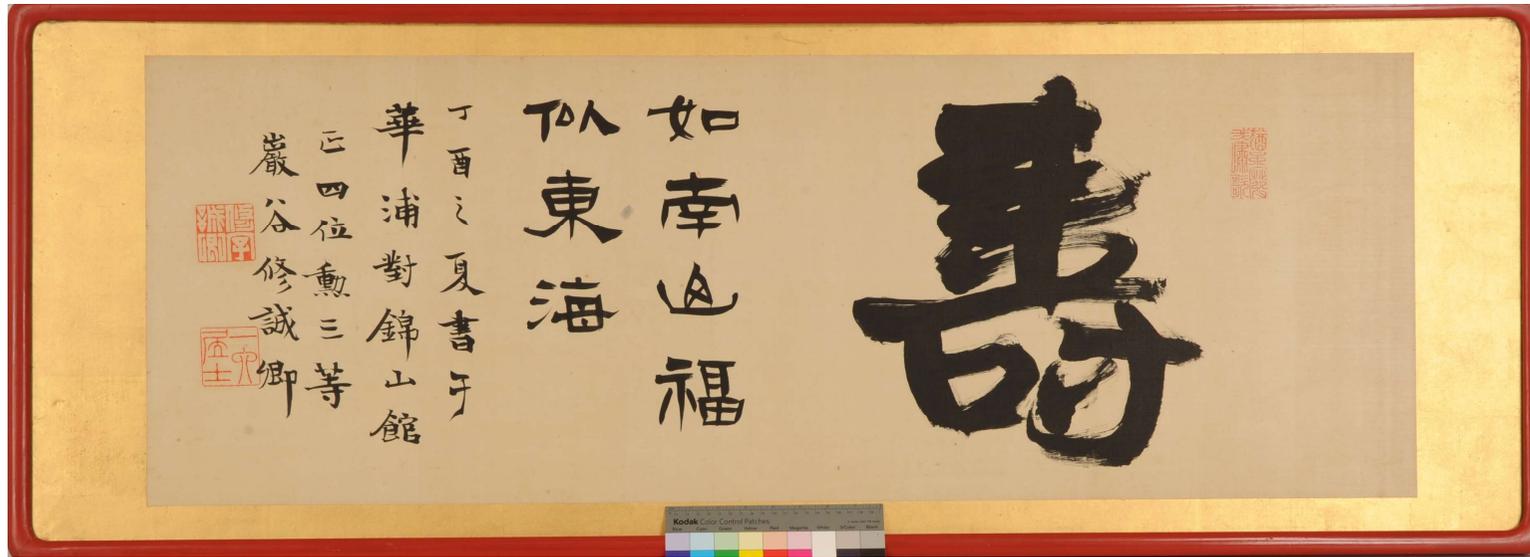


長三洲は、明治政府の官僚を務め、明治天皇に書道を教えた人物。  
福沢諭吉とともに、日本の学校教育の礎を築いた人物。

（釈文）

朝爽甚佳（朝爽やか甚だ佳し）

巖谷一六 「寿」 明治30年（1897）作（観峰館所蔵）



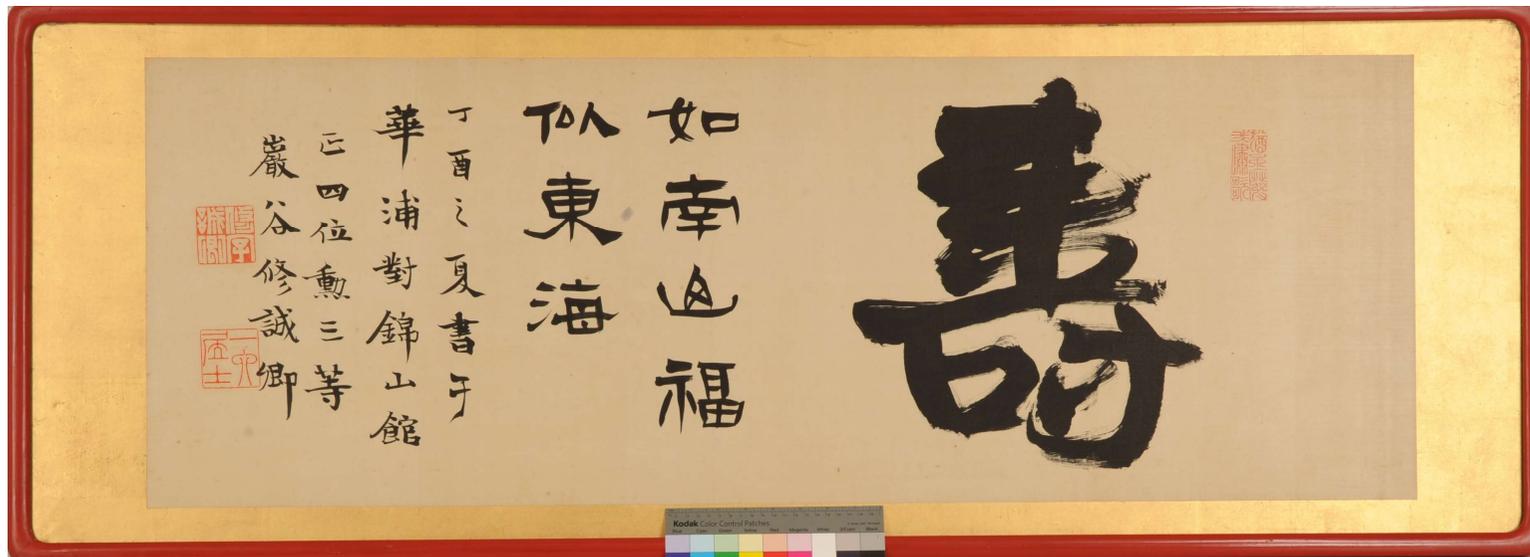
（釈文）

寿 如南山福／似東海

（寿は南山のごとく、福は東海のごとし）

（寿は南方の山のように空まで高く伸びていき、幸福は東の海のように遙か遠くまで続いていく。おめでたいことがずっと続くという意味。）

巖谷一六「寿」 明治30年（1897）作（観峰館所蔵）



- これまでとは違う文字の配置
- 行書と隸書とを用いて書いている
- 「正四位勲三等」と自身の官職を書くことから、贈り主との関係性が読み取れる。

# 今日の講座のおさらい

ありがとうございました。

## 次回の講座予定

• 10/19 (火) 9時30分～

「秋季特別企画展のご紹介②

～後期展示作品について～」

• 10/26 (火) 10時30分～

「ちょっと本格的な、掛軸の保存と修理。

演習③ 本紙の肌上げ」

観峰館